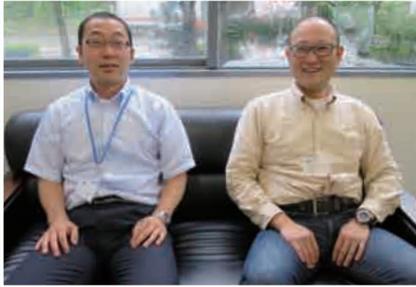


福島原発の放射性物質流出事故が 日本のシーフードマーケットに与える影響



【研究課題名】
小型漁船漁業の震災復興上の課題の解明

【実施年度】平成24～29年度

経営経済研究センター 漁村振興グループ

若松宏樹・宮田 勉

目 的

近年東電福島第1原発の事故による放射性物質の流出事故が問題となりました。この影響は福島県だけでなく他県地域の海にも及び、魚の評判を落としています。放射性物質は海底にたまりやすいと言われますが、日本人に馴染みが深く、海底に住んでいるタラ類への汚染状況はどうでしょうか？図を見て下さい。マダラ中の放射性セシウム日本の基準値は100Bq/Kgになっていますが、国際基準は1000Bq/Kgです。日本では基準値を超えるとその周辺でとれたタラはしばらく市場に出回りません。これらの市場への影響はあるのでしょうか？今回は福島県を除く地域でも影響があるかどうかを調べてみました。

方 法

築地市場のマダラ、塩タラ、スケトウダラの2004年1月から2013年7月までの月別の価格と販売量が、マダラ、スケトウダラ中から検出される放射性セシウムと関係があるかについて需要分析を行いました。また社会的な関心を示すものとしてグーグルで「タラ、風評被害、規制、汚染」などを検索した回数、ニュースの数などと検出される放射線量が関係あるかということも調べました。

結果及び波及効果

その結果、放射性物質検出量とタラの需要量に関係があることがわかりました。放射性セシウム濃度が1ベクレル上がると、マダラの需要は0.0011kg、スケトウダラは0.0013kg減ることがわかりました（約100～200トン/月の取引量あたり）。また基準を超えてしまい、一つの漁業が規制されてしまった場合、1.7

円/Kg（平均価格790円/Kg）価格が下がることもわかりました。このように想定していたより影響が小さかったのは市場関係者が安全な魚の買い控えをやめる取り組みを行ったことが背景にあるようです（水産経済新聞2012）。またグーグルなどで皆さんが放射能に関心を持って検索すると、安全性を確認したからか、マダラの需要はほんの少しですが回復したことがわかりました。実際の放射能汚染の状況はみなさんが思っているよりもひどくないのかもしれませんが、みなさんも検索してみてくださいはいかがでしょうか。

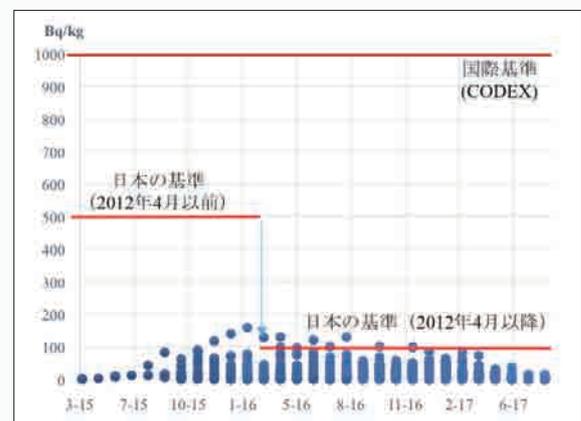


図 タラ中の放射性物質
(セシウム134,137) 検出量 (出所：水産庁 2013)

参考文献

水産経済新聞. (2012年12月14日). 魚への汚染、大幅に減少. 水産経済新聞社. 東京.
水産庁. (2013). 水産物の放射性物質調査の結果について. 水産庁ホームページ.
<http://www.jfa.maff.go.jp/j/housyanou/kekka.html>